

各報道機関文教担当記者 殿

## 関連分野の連携で先進的研究拠点を目指す 人間社会研究域に2センターを設置

金沢大学人間社会研究域では、平成23年2月1日付で、地域社会、住民生活及び地域経済上の課題を調査研究し、その成果を発信するとともに、地域に還元していくことを目的とする「地域政策研究センター」及び「文化資源」の総合的及び多角的な研究を通じて、金沢大学の国際連携を強化するとともに、広く国内外への情報発信及び提言を行うことを目的とする「国際文化資源学研究センター」を設置しました。これらのセンター設置を記念し、看板の上掲式を行いますので、お知らせします。

については、当日の取材報道をお願いいたします。

### 金沢大学人間社会研究域地域政策研究センター及び国際文化資源学研究センター看板上掲式

1. 日時 平成23年2月7日(月) 16:00～(30分程度)
2. 場所 金沢大学角間キャンパス(金沢市角間町)  
16:00～ 人間社会3号館1階玄関ホール  
(国際文化資源学研究センター)  
16:15～ 人間社会2号館4階467号室  
(地域政策研究センター)
3. 出席者 中村 信一 学長  
長野 勇 理事(研究・国際担当)  
生田 省悟 人間社会研究域長  
武田 公子 地域政策研究センター長  
中村 慎一 国際文化資源学研究センター長 外

取材の際は、自社腕章の着用をお願いします。

【本件照会先】  
角間北地区事務部総務課長 濱  
Tel: 264-5471

【担当】  
広報戦略室 福田  
Tel: 264-5024

# 金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センター

センター長：武田 公子（人間社会研究域経済学経営学系 教授）

## 【設置目的】

地域社会・住民生活・地域経済上の課題を調査研究し、その成果を発信していくとともに、地域に還元していくことを目的とする。

## 【部門構成と事業概要】

### I 研究部門（部門責任者：武田 公子教授）

地域社会学，地理学，行政学，地域経済論，財政学・地方財政論，社会保障・地域福祉論，農業経済論，マーケティング論等，地域研究に関わる人文社会科学分野の多様な専門分野の研究スタッフの連携によって，地域が抱える諸課題に関する調査研究を行う。

#### ①コミュニティ機能チーム（チームリーダー 神谷 浩夫教授）

コミュニティ機能の維持：集落単位の地域共同管理や自治組織のあり方について，その持続可能性とその条件を検討する。

#### ②生業・産業・雇用チーム（チームリーダー 佐無田 光准教授）

産業と生業の相互関連：農林業・エネルギー生産・観光・環境の横断的経営，第一次産業と第二次産業の組合せ，半公共部門を含む第三次産業，といった産業間の連携を探り，過疎地域における産業創出・ビジネスモデルを検討する。

#### ③行政資源チーム（チームリーダー 武田 公子教授）

高齢者の生活基盤：高齢化が進む地域での医療福祉ニーズの現状とその充足方法，相互扶助の機能維持の方策について調査検討する。また公的な医療・介護サービスの供給体制を考える上で，公立病院の役割について検討を行う。

以上を含めて過疎地の基礎自治体が担うべき役割と，地域の諸主体との連携のあり方，そのために持続可能な財政運営のあり方を検討する。

### II 社会貢献部門（部門責任者：碓山 洋教授）

研究成果の社会還元，および地域再生・活性化に取り組む人材の育成を目的とした「地域志高塾」（北陸地域経済学講座，奥能登教室の二講座）等の事業を実施する。

以 上

# 金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター

センター長：中村 慎一（人間社会研究域歴史言語文化学系 教授）

## 【設置目的】

経済開発やグローバリゼーションの進展で世界各地において消滅の危機に瀕している有形・無形の文化遺産を、新たな価値を創造するための「文化資源」ととらえなおし、その総合的・多角的な研究と保護・活用法の開発を行う。基本的に、海外研究機関と共同で事業を実施することで、本学の国際連携・貢献を強化するとともに、広く国内外への情報発信・提言をも行う。

## 【部門構成と事業概要】

### ①形態文化資源部門（部門リーダー： 藤井 純夫教授）

#### ○ヨルダン考古学研究・教育連携プロジェクト

藤井純夫教授担当。フセイン大学考古・観光学部との遺跡合同調査を基に、考古学野外実習プログラムの開発・実践、大学博物館の開設・運営、フィールドスクールの開催（研究者・保存修復技術者・文化財担当行政官の育成）などの諸事業を実施する。

#### ○世界複合遺産ティカル総合プロジェクト

中村誠一客員教授担当。グアテマラ所在の世界複合遺産ティカル遺跡において、グアテマラ文化自然遺産局と共同で、遺跡の調査・研究、修復・保存、観光活用、フィールドスクール開催などの諸事業を実施する。

#### ○世界遺産コパン総合プロジェクト

中村誠一客員教授担当。ホンジュラス所在の世界文化遺産コパン遺跡において、ホンジュラス国立人類学歴史学研究所と共同で、遺跡の調査・研究、修復・保存、観光活用、フィールドスクール開催などの諸事業を実施する。

#### ○ベトナム公共考古学プロジェクト

中村慎一教授担当。「公共考古学」とは、考古資料の価値を共有化する市民参加型の考古学的実践の謂いである。ベトナム考古学院と共同で、ベトナムの複数の考古遺跡を対象として、遺跡の現地説明会、市民参加の発掘調査、遺跡博物館や遺跡公園の建設、フィールドスクール開催などの諸事業を実施する。

#### ○インド宗教建築調査・研究プロジェクト

矢口直道准教授担当。インド・デカン大学院大学と共同で、インド古代宗教建築の調査・研究、保存・修復から、観光資源として、あるいは宗教的アイデンティティーの拠りどころとしての利活用に至るまでについて総合的な調査・研究を行う。

### ②伝承文化資源部門（部門リーダー： 鏡味 治也教授）

#### ○日中無形文化遺産プロジェクト

岩田礼教授ほか担当。日中両国において急速に消滅しつつある無形文化遺産について、国内外の複数の研究機関と共同で調査・記録・保護活動を展開する。

#### ○跨境民族と宗教変容プロジェクト

西本陽一准教授担当。民族宗教が民族的アイデンティティの拠りどころとして発見、利用されてゆく過程を、村落フィールドワークを通じて解明する。タイ・チェンマイ大学と中国・雲南民族大学との3者共同研究で、タイ／中国国境に跨って分布する少数民族を対象に、異なる国家的背景の中で発現する宗教のあり方について調査・研究を行う。

### ③文化資源情報部門（部門リーダー： 森 雅秀教授）

文化資源に関わる情報の体系的な収集・管理・公開・社会還元のための研究を行う。特に、形態文化資源部門および伝承文化資源部門における調査・研究の成果を、報告書刊行、ホームページ上での公開、データベース（画像・映像・音声）の作成と公開などの手段によって、世界各地へ向けて発信する。

以 上